

いぐさ八月苗床への除草剤の適用性

いぐさの八月苗床に対して、本田用に登録された除草剤ペントキサゾン（ベクサー）フロアブル剤および粒剤が適用可能である。これら除草剤はいぐさ八月苗床用除草剤として熊本県いぐさ除草剤使用基準に新たに採用できる。

農業研究センター い業研究所 栽培部（担当者：橋本 充）

研究のねらい

いぐさ八月苗床の雑草は、いぐさ苗の生育を阻害し、株分け作業の支障になるが、適用登録された除草剤がなく、防除手段が限られている。そこで、いぐさ本田に適用登録されている数種の除草剤について、いぐさ八月苗床に対する適用性を検討することで、いぐさ苗の生産安定技術を確立する。

研究の成果

1. ペントキサゾン（ベクサー）フロアブル剤は、いぐさ八月苗床に対して、いぐさ植付後0～5日処理、処理量500ml/10aで、適用可能である。
2. ペントキサゾン（ベクサー）粒剤は、いぐさ八月苗床に対して、いぐさ植付後0～5日処理、処理量1kg/10aで適用可能である。
3. ピラゾキシフェン・プレチラクロール・シメトリン（ワンオールS）粒剤は、いぐさに薬害を引き起こすので、いぐさ八月苗床には使用できない。
4. ビフェノックス（モーダウン）粒剤は、いぐさ植付後0～10日に使用時期を拡大できる。

普及上の留意点

1. 今後、普及展示によって実用場面での有効性を確認し、県除草剤使用基準への採用を図る必要がある。
2. いずれの除草剤とも10月以降の育苗後期に発生する雑草に対して有効でない。

[具体的データ]

第 1 表 いぐさ八月苗床における各除草剤の除草効果および薬害 (試験土壌 : 沖積埴壌土)

試験 年次	除草剤	処理 量 (a ¹⁾)	処理 ¹⁾ 時期 (月・日)	残草量 ²⁾								薬害 ⁵⁾		
				イネ科 ³⁾ 雑草		広葉 ⁴⁾ 雑草		カヤツリ グサ類		合計		症状	程度	回復 状況
				本数	重量	本数	重量	本数	重量	本数	重量			
1999年	無除草	-	-	-	-	1132	72.1	22	31.9	1194	104.0	-	-	-
2000年				50	605.9	517	46.4	39	44.3	606	696.5	-	-	-
1999年	ペントキサゾン (ベクサー)	50mL	8.12 (+ 0)	-	-	41	t	100	t	54	1	-	無	-
			8.17 (+ 5)	-	-	37	t	209	1	51	1	-	無	-
	フロアブル剤		8.22 (+10)	-	-	60	5	136	17	73	11	-	無	-
2000年			8.10 (+ 0)	978	2	210	44	229	2	274	4	-	無	-
			8.15 (+ 5)	311	29	113	51	186	77	134	33	-	無	-
			8.20 (+10)	1422	t	124	5	243	56	239	4	-	無	-
1999年	ペントキサゾン (ベクサー) 粒剤	100g	8.12 (+ 0)	-	-	41	1	109	t	53	2	-	無	-
			8.17 (+ 5)	-	-	54	1	173	t	66	1	-	無	-
			8.22 (+10)	-	-	45	28	145	31	50	29	-	無	-
2000年			8.10 (+ 0)	856	t	131	8	129	1	191	1	-	無	-
			8.15 (+ 5)	1078	2	127	16	200	1	210	3	-	無	-
			8.20 (+10)	411	12	163	49	157	182	183	25	-	無	-
1999年	ピラゾキシフェ ン・プレチラク ロール・シメト リン (ワンオール S)	100g	8.12 (+ 0)	-	-	78	t	27	t	81	1	-	無	-
			8.17 (+ 5)	-	-	42	t	9	t	45	t	生育抑制	微	速
			8.22 (+10)	-	-	46	t	18	t	55	t	蛇腹茎	微	速
			8.27 (+15)	-	-	42	t	36	t	53	1	蛇腹茎	微	速
2000年			8.10 (+ 0)	856	t	105	2	14	t	161	t	-	無	-
			8.15 (+ 5)	956	t	69	1	14	t	139	t	生育抑制	微	中
			8.20 (+10)	811	t	59	1	29	t	119	t	生育抑制	微	速
			8.25 (+15)	1411	6	43	t	14	t	154	5	-	無	-
1999年	ピフェノックス (モーダウン) 粒剤	400g	8.12 (+ 0)	-	-	40	1	100	t	49	1	-	無	-
			8.17 (+ 5)	-	-	59	1	118	t	70	1	-	無	-
			8.22 (+10)	-	-	49	4	200	t	64	3	-	無	-
2000年			8.10 (+ 0)	1178	t	156	9	143	1	239	1	-	無	-
			8.15 (+ 5)	1244	t	119	2	43	t	207	t	-	無	-
			8.20 (+10)	1489	t	137	2	214	t	253	t	-	無	-

1) 処理時期の()内はいぐさ植付後日数である。

2) 1999年試験は10月7日調査、2000年試験は10月4、5日調査。無除草区はm²当たりの本数と風乾重(g)、各除草剤処理区はそれに対する比率(%)、「t」は四捨五入で1未満を示す。

3) イネ科雑草は1999年試験では発生量が僅かなため示していない。2000年試験では主にノビエ(植付直前に播種)である。

4) 広葉雑草は主にアゼナである。

5) 薬害調査の程度は無・微・小・中・大・甚の6段階評価、回復状況は速・中・遅の3段階評価である。